

5-3 整備事業に必要な調査等に関する計画

広大な範囲において、災害等から史跡英彦山の構成要素を守り、継続的に維持管理するために、新たな技術の採用も含め、保存や公開活用のための整備に係る技術的知見の調査研究を行う。整備にあたっては、事前に建造物、工作物の測量調査や、遺構の確認調査等を行い、専門家による助言を踏まえながら進める。手付かずのまま放置されている庭園遺構においては、調査研究を継続的に進め、必要に応じて今後の整備方針を検討していく。

5-4 公開・活用に関する計画

史跡英彦山の価値を多様な世代へ発信するため、サインやパンフレットのほか、デジタル技術を活用した情報発信の強化を図るとともに、専用ガイドやイベント等を通じたコミュニケーションによる情報発信を推進し、公開・活用していく。

活用にあたっては、歴史的建造物や遺構等に悪影響が生じないよう整備を図り、周辺の景観との調和に努める。情報発信にあたっては、調査研究の進捗状況等に応じて内容の適宜見直しを行い、情報の更新を図る。

展示やパンフレット・サイン等による情報発信

- 展示施設において、英彦山神宮等の文化財所有者との連携を図りながら、内容の充実を図る。
- 増加する外国人観光客に対して、解説サインやパンフレット等の外国語表記を行う。
- ホームページやSNS等を通じた情報発信のさらなる充実を図る。
- VR・ARといったデジタル技術を利用した、庭園や建造物の復元等の表現を検討する。

ガイド案内や史跡を活用した体験・イベントの開催

- 宿坊における、カフェやガイドダンス機能等を設けた観光拠点としての活用を促す。
- 近年の英彦山神宮での読経・写経体験や山伏修行体験等、観光振興に繋がる史跡の活用として、さらに充実した観光プランを進めていく。
- 添田町観光ガイドの会によって、史跡英彦山の歴史や自然環境等の解説を行っている。今後もさらなるサービスの向上を促す。

教育や研究を通じた公開・活用

- 周辺市町村の子ども達への学習機会を提供するため、学芸員や専門ガイドといった専門家によるセミナー等、既存の「英彦山こてんぐ塾」等と連携しながら学習プログラムづくりを行う。
- 継続的な調査研究により蓄積された成果は、公開講座等の場を通じて周知する。
- 九州大学農学部附属彦山生物学実験施設と連携し、英彦山内の貴重な動物や昆虫、植物等の地域資源を活用したイベント等の開催を促進する。

5-5 管理・運営に関する計画

整備、管理においては、管理団体である添田町文化財所管課を中心として、庁内の各課、各機関と広く連携を取りながら、一体的な協議・調整を行うための体制を構築する。また、学校や地域住民の関わりにより、常に充実、更新していく管理・運営システムづくりを検討し、町民の史跡英彦山への認識や愛着を深めていく。

庁内の横断的な体制の強化

- 庁内で情報共有し、関係部局との連携を図る。
- 文化財担当の人員体制を強化し、積極的な活用整備に取り組む。

史跡所有者との連携

- 史跡の所有者となっている、添田町、英彦山神宮、民間所有者の情報共有の連携を強化する。
- 樹木の剪定や除草作業等、史跡に係る点検やメンテナンスについては、各所有者が継続的に実施するよう協力を求める。
- 史跡を毀損させる恐れのある支障木等の除却や、建造物の保存修理等においては、町と協議・調整を図りながら各所有者が実施するよう協力を求める。

民間団体との連携

- 周辺地域の既存団体と連携しながら、日常的な維持管理や情報発信、活用等の取り組みの充実化を図る。
- 大学やその他専門家等との連携を図り、史跡英彦山の保存と公開活用に取り組む。

その他担当所管や運用主体との連携

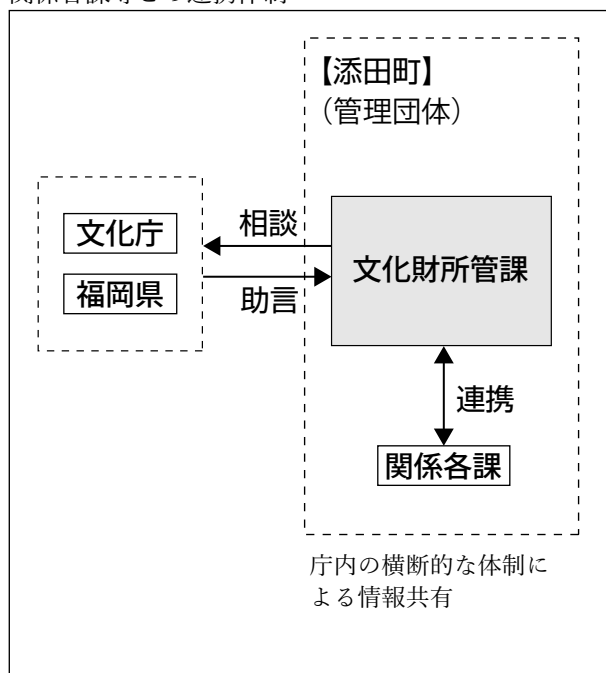
- 「添田町歴史的風致維持向上計画」(歴まち計画)の重点区域や国定公園に選定されている区域において、担当所管である国土交通省、環境省、福岡県自然環境課との連携を図りながら管理・運営を行う。
- 展示・ガイダンス施設等の内容を常に充実・更新させるため、指定管理者制度による管理・運営体制の強化を図る。

■連携体制

添田町文化財所管課を中心とした庁内の各課、各機関の連携体制イメージと、各役割は以下の通りである。

(行政)

確実に史跡を保存・整備していくための、担当所管・関係各課等との連携体制



(地域団体・関連団体)

持続的な保存活用に係る整備を行うための、地域団体・関連団体との連携体制

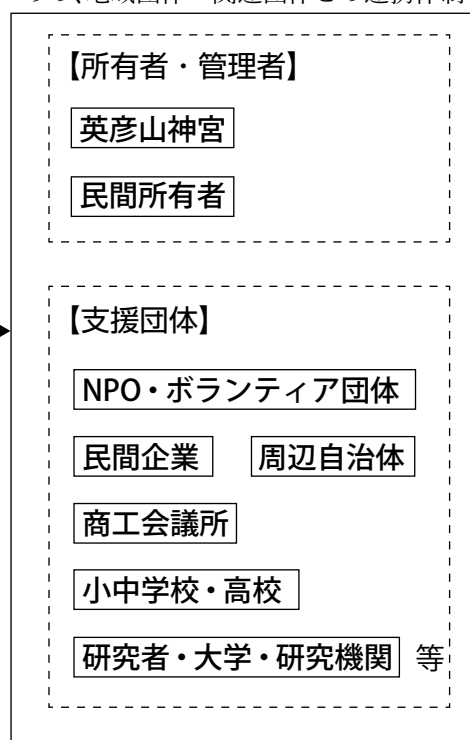


図5-21 連携体制のイメージ

表5-6 庁内・外の各課、各機関の役割

機関・団体名	役割
文化庁	史跡の整備にあたり指導・助言を行う。
福岡県	史跡の整備にあたり指導・助言を行う。
添田町文化財所管課	史跡英彦山の管理団体。庁内の横断的な体制と、関連団体との連携体制を図り、史跡の管理に努める。整備・活用を担う人材育成を促進する。
添田町関係各課	現状変更の取扱い基準の適切な運用、自然環境や防災等の情報共有と対策強化を図る。
英彦山神宮	史跡英彦山の大部分のエリアを所有する。公開活用・整備において連携を図る。
民間所有者	宿坊跡などの民間の所有者。公開活用・整備において連携を図る。
NPO・ボランティア団体	史跡英彦山や関連文化財などの案内ガイドや史跡を活用したイベント等の運営を行う。
民間企業	史跡英彦山に関連したイベントや商品開発等の協働企画など、ネットワーク化を図る。
周辺自治体	町の境を越えたネットワーク化を図る。
商工会議所	イベント開催など、史跡の観光活用についての連携を図る。
小中学校・高校	教育機関と連携し、史跡英彦山を活用した歴史学習・地域学習を行う。
研究者・大学・研究機関	史跡の研究や研修を通じたワークショップ等を行い、公開活用に繋ぐ協力体制のネットワークを広げる。

5-6 事業計画

計画期間として、この先20年後の時点で史跡の公開活用が円滑に行われている状態にあることを目標とする。

広大な範囲を有する史跡英彦山を効率的かつ重点的に整備を進めるにあたり、各ゾーンの整備内容の特徴を踏まえた開始時期と整備期間を設定する。また、過酷な気象条件や自然災害等により毀損が進行している史跡において、緊急度や必要性を勘案しながら、調査研究に基づき保存修理を進める。

なお進行にあたっては、進捗状況や社会情勢等を踏まえ、定期的に計画改訂の必要性を検討する。

表5-7 事業スケジュール（前期）

年度(令和)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西暦		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
①歴史文化の拠点	山頂聖域		設計/保存修理/修景、植栽/解説サインの整備 ■■■■■								
	修行窟										■■■■■
	英彦山神宮	下宮保存修理 ■■■■■		■■■■■	■■■■■						
	座主院跡										
	門前坊舎		設計/保存修理/修景、植栽/解説サイン ■■■■■								
②活用の拠点	花駅 (旧英彦山小学校)			設計/ガイダンス機能の整備 ■■■■■					■■■■■		
	英彦山修験道館				設計/収蔵機能の整備 ■■■■■					■■■■■	
	銅鳥居周辺駐車場			設計/ガイダンス機能の整備 ■■■■■					■■■■■		
③主動線	参道 (境内と門前領域)	設計/修景/解説・誘導サインの整備(歴まち計画) ■■■■■							■■■■■	■■■■■	■■■■■
	登拝道 (山中行場)	設計/修景/解説・誘導サインの整備(九州自然歩道) ■■■■■							■■■■■	■■■■■	■■■■■
④目的別動線	参道から座主院に至る動線										
	英彦山神宮から修行窟に至る動線										■■■■■

- 歴史文化の拠点について、最初の10年(前期)は史跡の象徴である山頂聖域の整備を行う。その後の10年(後期)で、修行窟、英彦山神宮、座主院跡の整備を行う。門前坊舎については、所有者及び利用者による事業の進捗に応じ、継続的に整備を行う。
- 活用の拠点については5～6年後を目安に整備を行う。
- 主動線については、「添田町歴史的風致維持向上計画」(歴まち計画)と九州自然歩道の各関係所管により既に整備が進められており、今後も継続し前期を目安に整備を行う。
- 目的別動線においては、後期に整備を行う。

表5-8 事業スケジュール（後期）

年度(令和)		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西暦		2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038
①歴史文化の拠点	山頂聖域	■■									



英彦山全景